

あいらつ 理事長



公益財団法人岩手県体育協会

理事長 平藤 淳

6月の定時評議員会で選任いただきました副会長兼理事長の平藤淳です。3期目となるこの2年間も、岩手のスポーツの発展のために力を尽くしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、この2年間を見とおすと、「守るべき価値」と「新しくすべきこと」の両面を考えながら、関係の皆さまとともに、様々なことを推進して行かなければならない期間であると考えています。

この夏に終了した東京オリンピック・パラリンピックでは、7名の岩手ゆかりのアスリートを含めた日本選手の活躍、競技の様子、そして、選手や運営にまつわる物語に感動しながら、テレビやネットの中継を見ていたことを思い出します。そして、まもなく北京冬季オリンピック・パラリンピックが開催されますが、皆さまも、岩手県選手の出場と活躍を胸をわくわくさせながら待っていることでしょう。

県内をみても、2月のスキーインターハイ、9月の日本スポーツマスターズ、そして2023年2月にはスキー国体と、全国大会の県内開催が予定されております。

県関係選手の国際大会での活躍や、身近な会場でのレベルの高い大会の開催は、私たちが幸せに、健康で文化的な生活を送ることに好影響を与えるものです。私たちは、スポーツの「守るべき価値」を大切に、さらにその価値を高めてゆかなければなりません。そのためには、大会開催やアスリートの活躍はもちろん、多くの皆さまが、スポーツに親しんだり、スポーツにかかわったり、関心を寄せてくださったりすることが必要なのだと考えます。

一方、社会の変化に対応するため、あるいは感染症拡大下のスポーツを守る目的で、「これまで」を大きく変えてゆく必要もあります。選手強化事業をみれば、

たとえば、合宿練習会などで多くのアスリートとともに技量を高めたり、他県のチームと戦術や技術を試しあって力をつける県外交流などを中心とした事業の占める割合などは見直されるべきだと思っています。また、これまで競技スポーツ推進の中心となっていた学校の部活動も、参加形態や運営方法の変化を求められています。

さらに、スポーツ団体やクラブの運営に関しても、ガバナンスコードの制定に伴い、理事構成など組織運営の中核となる部分の見直しが求められ、また、総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度が動き出すことによる事業実施体制の点検などが必要となってきます。

私たちは、岩手のスポーツの歴史的時期に立ち会っています。そして、それは「面倒くさい時期」ではなく「チャンスの時」だと思っています。

感染症の拡大でスポーツ活動が制限された昨年6月の定時評議員会で『「団結・結束 スポーツいわて」宣言』を、評議員の皆さまに採択していただきました。昨年1月に発行した「体協いわて」第87号のこのページに、私は次のように考えを述べました。「宣言を機会に、事業の見直しや開始を機会に、点検し続ける岩手のスポーツ界でありたいと考えています」。

今もこの考えに変わりはありません。

ただし、事業を進めながら、面倒くさがらずに、事業の目的を振り返ることをしたいと考えています。

チャンスの時を生かす合言葉は「だれのため、なんのため」です。

だれの何が向上すればよいのか、だれの何が変わればよいのかを、そして、そのためにだれに何をすればよいのかを、自分自身で問い続けたいものです。